

保護者様

茨城大学教育学部附属幼稚園副園長 小泉 晋弥

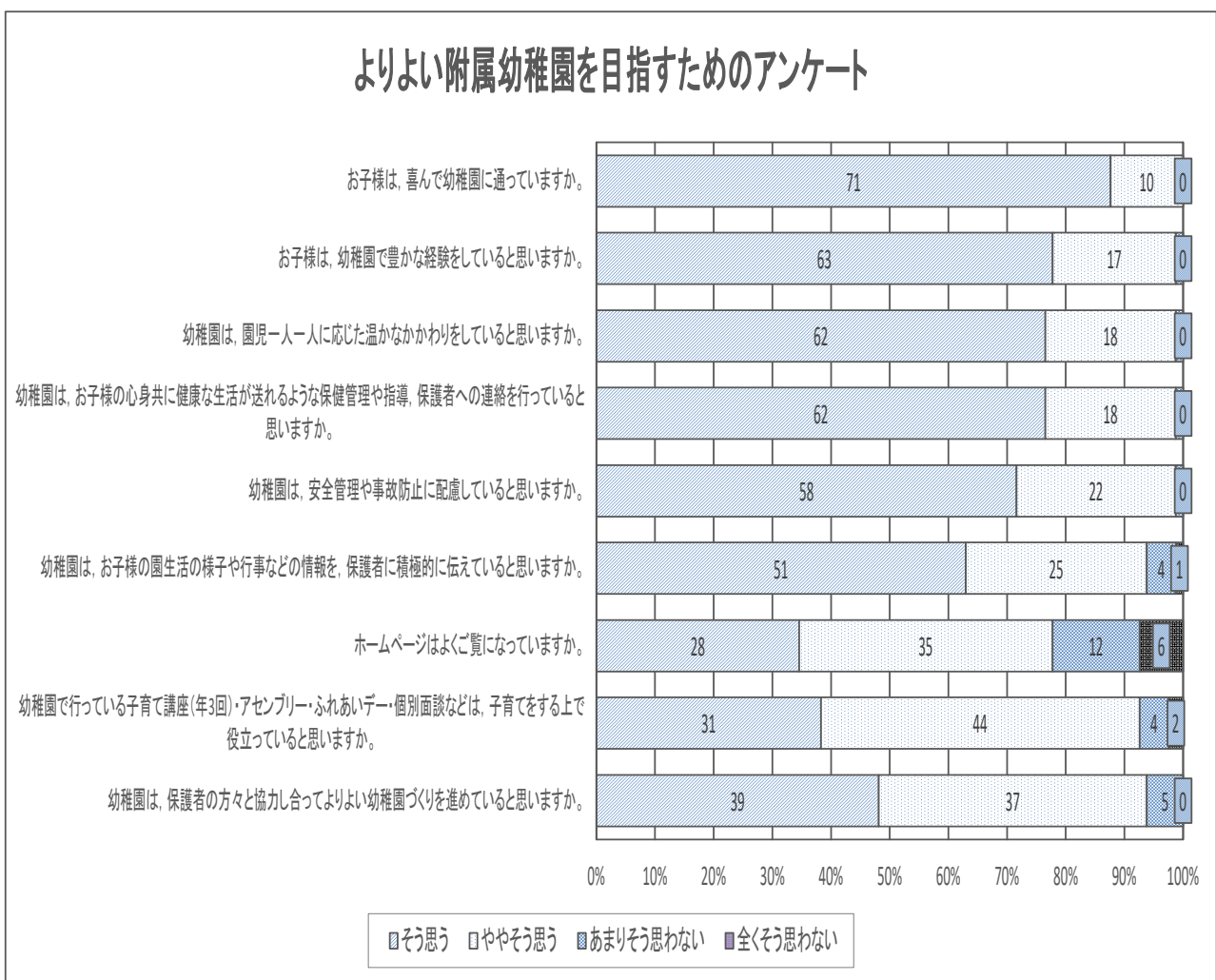
平成29年度保護者アンケートの結果等について

春暖の候、皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じます。そして年長児保護者の皆様、お子様の幼稚園課程修了誠におめでとうございます。また全保護者の皆様にはこの一年、園児並びに幼稚園を温かく見守り支えていただきまして、心よりお礼申し上げます。

さて、3学期始めにご協力をいただいたアンケートの集計結果及び皆様方からの様々ご意見を踏まえて下記のとおり、来年度の園の改善案をまとめましたので、ご報告いたします。今後ともよりよい幼稚園づくりのために、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

記

(H30.1.11 ~ 19 実施 回答数延べ81名)



※グラフ中の数字は人数です。

◆ 9項目の結果を見て

- 全ての項目で「そう思う」「ややそう思う」の合計が昨年度を上回りました。職員一人一人の頑張りが少しでも認めてもらえたのではないかと考えると大変ありがたく、職員のさらなるやる気につながります。
- 園児が喜んで幼稚園に通っているという項目は100%でした。職員一同喜んでおります。
- 昨年度までホームページ(HP)の学級のページが有り、クラスのパスワードで見ることができましたが、大学から個人情報漏洩の危険があるので行わないようにとの指導があり、公開できる写真だけを掲載することにしました。そのためクラスの写真が見られなくなってからHPもあまり見なくなったという意見がある一方、HPが良かったという意見もありました。

- ・子育て支援の項目では「そう思う」の割合が少なくなっています。子育て支援の行事が多く、親の負担になっているという意見もありました。

◆ 来年度に向けた園の改善策

- 園児が生活している様子を HP や掲示物、担任からの話などで、できるだけ保護者に伝えていくようにする。HP を更新した時にはそのことを保護者に伝える。
- 保護者が参加する行事等を減らしていくようにする。
 - ・子育て講座→1, 2 学期のみとする。名称も「講演会（仮）」に変える。主催は幼稚園とする。
 - ・ふれあいデー→学期に1回とする。2日間設定し、都合の良い日、都合の良い時間に自由に参観できるようにする。名称を「保育自由参観日」とする。
 - ・通園集会は1学期のみとする。
- 学級でまとまって行う発表会などの場を設けるようにする。
- 園児の心とからだがたくましく育つような環境と保育内容の工夫を進める。
- PTA 活動が負担なく楽しくできるよう、保護者と一緒に柔軟に進めていくようにする。
- PTA 役員の皆様と共に PTA 組織や課題等の検討を進め、改善策を来年度中につくり、PTA 総会で提案することも視野に入れていく。

◆ 本年度の自己評価と学校評議員からの意見

目 標	本年度の取組における自己評価	学校評議員の方々からのご意見
豊かな育ちを支える保育	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が保育記録を積み重ねて翌日の保育に生かしてきた。 ・特別に配慮を要する園児に対しての研修を行うなど、個に応じた保育を行ってきた。 ・思考力の芽生えを視点とした園児の育ちを捉える事例研究を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が日々の保育や研究に全力で取り組み、成果を出しているところが素晴らしい。研究面で他園をリードできるような研究体制をつくってがんばってほしい。
安全・安心な幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を全職員で毎月実施した。 ・計画を見直しながら現実的な避難訓練を行ってきた。 ・養護教諭による様々な保健指導を各学年で実施した。 ・各保育室内の衛生管理に注力できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に衛生管理をしっかりと行って、安心できる保育環境を保っている。 ・保護者等への情報提供方法については、HP だけに頼らず、適時適切に行うことに努力して欲しい。
子育て支援・保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の参加負担感があった。 ・委員会が活動しやすくなるよう協力してきた。 ・保護者の子育てを応援できるよう園の方針を見直しながら取り組んできた。 ・くま組活動に職員も参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動は、負担感を大きくせぬよう活動内容を見直す時であろう。保護者数も減少しているので改善策が欲しい。
大学や附属学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学生の保育参加を多く受け入れた。卒論研究に協力したりした。 ・他大学の学生にも実習の場を提供した。 ・他の附属学校との交流を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の欠員があり、教育実習や研究面で支障が出ていると思われる。
地域及び他教育機関への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸二中生、水戸三高生の授業に協力した。 ・公開保育研究会参加者 200 名。アンケートから、勉強になったという声が多かった。 ・県教委に研修会の場を提供した。 ・他の幼稚園団体の活動に協力してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が少ない中で様々な教育機関との協力もできており、附属幼稚園の伝統を守ることもできている。